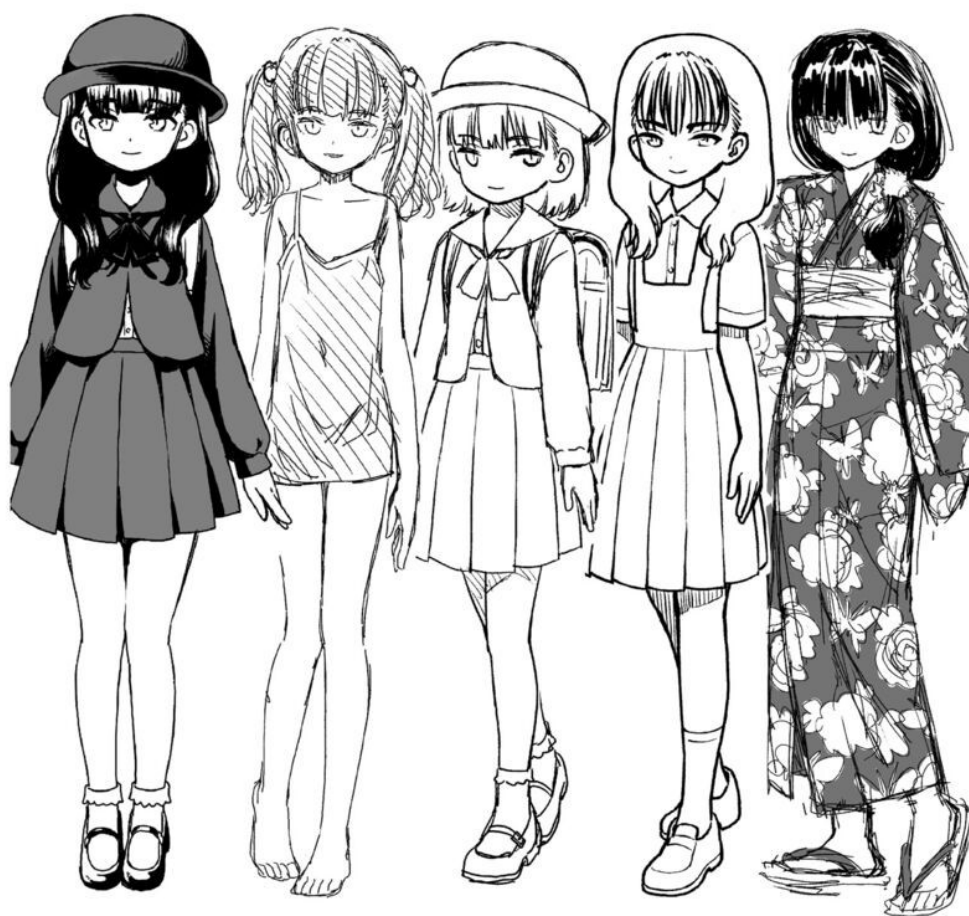
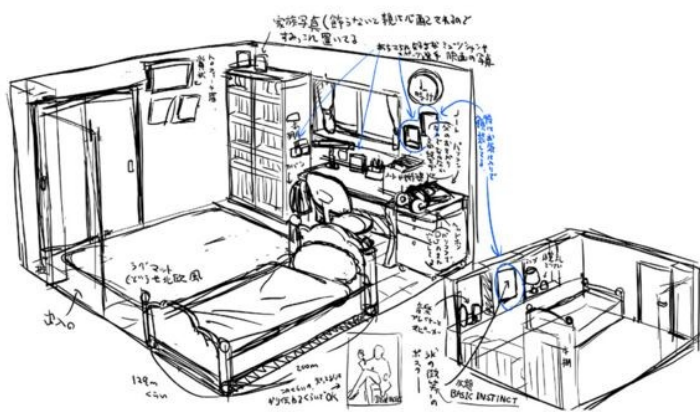


「真夜中の夜子さん」 未整理な引き出し

DLsite
購入特典





↑セキレイの部屋。
 人に描いてもらうので作ったスケッチ。
 セキレイの部屋は、母親が毎日掃除するし、家具も母親の趣味で選ばれていて、セキレイは窮屈に感じます。それで、親の目の届かないところではじけたがる。部屋を考えてるうちに、セキレイのキャラクターをより深く作りこむことができました。

作画資料にずっと役立ってくれたカラスアゲハの標本。単行本の裏表紙にも使ってます。東京都中野区の「むし社」というお店で購入。僕は模型が趣味なんですけど、こんな美しい模型は手で作ることはできないでしょう。なのに、箱込みでたった7000円。プロのモデラーの模型は十数万はするでしょうに…。



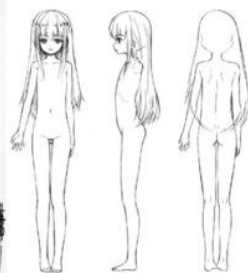
「水曜日の夜子さん」背景
 当時はまだ、紙にペンで描いてました。えらく描きこんでますね。やる気があつたんでしょ。今はすべてデジタル作業ですが、こうして振り返るとGペンや丸ペンで引く線は鮮明でいいですね。





何ページか飛んでます
(男がどんどんセックスに
溺れていく)

このネームを放棄して書いたのが「教えてあげる」です。(「女の子のおもちゃ」収録)放棄したネームが2週間もかかって完成しなかったのに、「教えてあげる」は2時間でできてしまいました。でも、おかげでわかりやすい漫画になってよかったと思います。



夜子さんの種

これは、「運転手」でLOデビューしたあと、次の作品として書いたネームです。(ネームは漫画の草稿)当時、エロ漫画は書きなれておらず、何を書くかぼんやりしてましたが、なんとなく「怪しい売春」と「美少女の姿をした怪異」がやりたいという気持ちがあつて、「少女とセックスできる闇売春に行ったら妖怪だった話」を書き始めました。ところが不思議なもので、なんとなく書きたいものがあるというだけではオチも展開も決まらず、迷走に迷走を重ね2週間も経ち、焦りばかりのつってちつともまとまらないので、結局あきらめることにしました。それでも、その後僕が書くのは、妖怪じみた不思議な少女ばかりでした。一人の作家が書きたいことなんて、そう多くはないのかもしれませんが、このあきらめてしまったネームも今振り返ると、夜子さんの種のひとつだったと思います。僕はきつとこれからも、この「美少女の姿をした怪異」を書いていくんでしょね。